

ニッポン

ドクター和の



臨終図巻

延命治療をどこまで希望する
か？ 自分が終末期になったと
きの希望を、元気なうちに書面
で明らかにしておくことを「リ
ビングウイル」（以下、LW）
といいます。

私は日本尊厳死協会の副理事
として、休日返上でLWの普及
のため、全国を行脚する日々で
す。LWにおいて、悩
ましいのが遷延性（せん
えんせい）意識障害
になった場合です。

今回はミュージシャン
の桑名正博さんの死
から5年（2012年
10月26日没。享年59）
とごうごうと、この問
題を考えていきます。

桑名さんが突然倒れ
たのは12年7月15日。
脳幹出血でした。脳幹

長尾和宏（ながお・か
ずひろ）東第
二兵二
京医大卒業後、大阪大
二内科学局。1995年、
庫県尼崎市で長尾クリ
ら在宅医療まで「人を
る」総合診療を目指す。
近著「葉のやめどき」は
「痛くない死に方」とい
ずれもベストセラー。関
西国際大学客員教授。

27 桑名正博

は「いのちの座」とも呼ばれる
最も神経線維が集中している場
所。呼吸や心臓の動き、つまり
生命活動そのものをコントロー
ルしているため、ここに出血す
ると重篤で、仮に命が助かって
も意識障害から回復しないこと
があります。

遷延性意識障害とは、交通事
故や脳幹出血などで、意思疎通
ができずに寝たままの状態が3
カ月以上継続していることをい
います。昔は植物状態と呼んで
いました。

桑名さんはその日、明け方ま
で自宅で仕事をしていたとこ
ろ、激しい頭痛に襲われ救急車
を呼びました。病院に着いたと
き、血圧は260まで上昇し呼
吸停止状態。余命は最大3日と
告げられました。

しかし、医者も驚くほどの生
命力で余命宣告を乗り越えま
す。かといって回復は不可能
。奥さんと妹さんは早く逝か
せてほしいと言ったそうです
が、前妻のアン・ルイスさんと
の息子、美勇士（みゆうじ）さ
んは「奇跡があるのなら賭けて
みたい」と対立したそうです。
LWはありませんでした。

このように親族の意見が分か
れた場合こそ、LWが尊重され
ます。本人の意思が明確であれ
ばもめ事も回避されるのです。

しかし、脳幹出血な
どで突然倒れた場合は
LWの尊重が難しいの
も事実。どこからが終
末期なのか、判断がつか
ぬからです。前



家族救う「終末期への遺言」

述のように3カ月意識が回復し
ないと遷延性意識障害と判断さ
れ、しかもLWの適用となるの
は倒れてから6カ月以降と考え
られています。
当初は奇跡を信じ、一日でも
長く生きてほしいと望んだ美勇
士さんも、父が倒れて2カ月後
の週刊誌のインタビューで「巨
額の医療費をこれ以上払えな
い。逝けない不幸もある」と答
えています。

結局、桑名さんの闘病は10
4日続きました。「この状態が
2年も3年も続いたら…オヤジ
はそんな家族の気持ちかわかっ
て旅立ってくれたんやと思う」
と美勇士さん。

還暦になったら60回ライブを
やると意気込んでいたのに59歳
で亡くなった桑名さん。実現し
ていたら私も行っていただいしょ
う。「月のあかり」というバラ
ードが好きでした。深夜の往診
の帰路、あの歌を口ずさみなが
ら見上げる月に無常を思う今日
この頃です。